

兵庫県保険医協会

# 但馬支部ニュース

No.163

2020年11月5日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部  
連絡先 〒669-5346 豊岡市日高町伊府660  
谷垣医院 TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706

## 会員インタビュー「但馬の息吹」 ～黒瀬 博計先生（朝来市）の巻～ 「地域に根付き、患者さんに寄り添う医療」 目指して（前編）



黒瀬博計先生（左）に坂本健一支部幹事（右）が地域医療にかける思いを伺った

但馬の地に根差して診療されている会員の先生へのインタビューコーナー「但馬の息吹」。今回は、雲海で有名な竹田城跡の麓で開業されている黒瀬博計先生（朝来市和田山町竹田・はるかぜ診療所・2015年開業）を支部幹事の坂本健一先生（朝来市和田山町東谷・さかもと医院）が訪ねた。

（2面に続く）

## 診療所派遣を経験して

**坂本** 本日はよろしくお願ひ致します。初めて黒瀬先生の診療所にお邪魔して、いろいろお話を伺いできるということで楽しみにしております。

**黒瀬** こちらこそ、自治医大の大先輩の坂本先生にお越しいただいて大変恐縮です。

**坂本** さて黒瀬先生は、プライマリケア医として外来をされる一方で、在宅医療も積極的に推進しておられます。医師としての来歴をお伺ひしたいのですが、ご出身は神戸ですか？



緻密に整理されたカルテ類

**黒瀬** はい。東灘区で生まれ、兵庫区で育ちました。自治医大を1994年に卒業後、初期研修の最初の2年を県立淡路病院で勤め、3年目から新温泉町の国民健康保険照来診療所に赴任しました。今はほとんどないですが、診療所派遣です。

**坂本** 診療所研修に抵抗はなかったですか？

**黒瀬** 実は、もともとへき地医療をやりたくて自治医大に進んだので「研修で診療所に派遣されるのは当たり前」という感覚でした。

**坂本** 医師を目指す時点からへき地医療を志されていたとは、医師としてのスピリットを感じますね。私は自治医大1980年卒ですが、私の時代でも、最初からへき地医療を志す友人は限られていたように思います。しかし、実際に診療所に赴任すると、事前の印象が変わるとよく聞きます。ギャップはありませんでしたか？

**黒瀬** 診療そのものはゆったりしていましたが、社会人3年目で急に管理職となり、しかも常勤1人の診療所長として経営会議に出るなど、それまでとは違う責任が出てきました。穏やかな住民の方が多く、特にトラブルなどはなかったのですが。

**坂本** 私も国民健康保険灘診療所（現南あわじ市）に自分で希望して研修をしていました。同じく1人診療所長で責任は大きかったですが、希望して行っただけに面白かったですね。

**黒瀬** 淡路と言えば、9年の年季（地域医療従事期間）明けには、国民健康保険鮎原診療所（現洲本市）に赴任し、結果5年いました。有床診療所だったので、よほど高度な治療が必要な患者さんでなければ自院に入院してもらって自分で診ることができたので、守備範囲が広がったと思います。

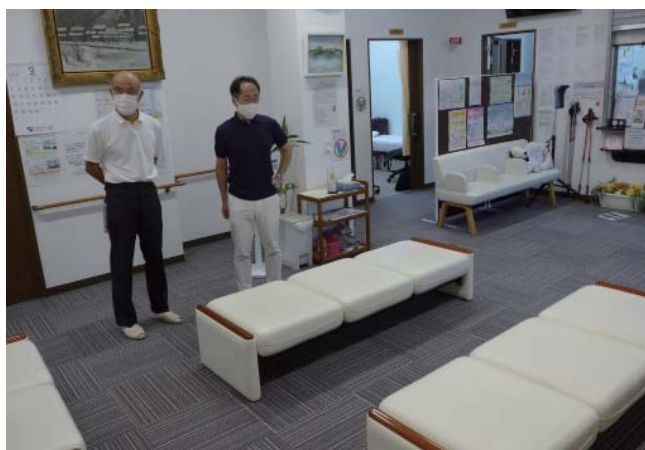
（3面に続く）

## 内科・外科両方の研鑽を積んで

坂本 入院患者さんがおられると、格段に忙しいですよ。

黒瀬 忙しいですが、内科と外科と両方の経験を積むことができました。胃ろうも必要とあれば作っていましたからね。

坂本 胃ろうもですか。ということは、お若い頃は外科を志望されていたのですか。



ゆったりした十分な広さの待合室

黒瀬 最初の県立淡路病院時代は、内科、外科、小児科を担当しましたが、外科は緊急手術などの症例も多く、特にインパクトが強かったです。「やりがい」というか、自分が患者さんを治しているという実感がありました。医者としてやっていく軸が必要とも思っていたので、それで外科が良いかな…と感じたのです。ただ、他でも病院勤務を続けていくうちに、天性のセンスというか、手術の上手な先生は他にもおられるので、「外科専門医としてはどうかな？」とも感じる経験は正直ありました。

坂本 病院では、手術後の患者さんを同じ医師が最期まで診ることはまれですね。

黒瀬 そうなんです。尼崎の急性期病院勤務時はがん手術もしましたが、自分で手術した患者さんでも、再発して亡くなる直前の終末期には他院に送ってしまう。制度上、在院日数や病床稼働率の関係で致し方ない面はありますが。そこで「手術そのものは上手な先生に任せて、自分はその患者さんを最期まで診る方が、どちらかと言えば自分の性に合っているのでは？」とも思い始めました。【以下次号】

## 「みんなでストップ！負担増」署名にご協力を

協会では、政府が進める医療や介護の患者負担増計画を阻止するために、「みんなでストップ！負担増」署名に取り組んでいます。

75歳以上の患者窓口負担の原則1割から2割への引き上げなどの制度改悪が実施されれば、高い窓口負担を理由に受診抑制が進みかねません。

患者さんにも政府の狙いを知らせ、負担増計画を中止させましょう。

署名の注文などは TEL078-393-1807 まで



## 第34回支部総会総会を開催

# コロナ禍でこそ社会保障守る活動を



谷垣支部長（左）と藤井高雄副支部長（右）で意見交換

但馬支部は9月27日、豊岡市内で第34回支部総会を開催、2020年度活動方針を採択した。

谷垣正人支部長（豊岡市）はあいさつで「新型コロナウイルス感染症拡大により医科・歯科ともに医療機関は厳しい状況が続いているが、困難な状況の今こそ、地

域医療を担う私たちが国民皆保険や社会保障を守り、発展させていかなければならない。会員の先生方から知恵をいただきながら、今期も活発な活動を展開したい」と述べた。感染対策のため記念講演と懇親会は中止した。

### 2020年度但馬支部活動方針

- 1、病診連携を深める取り組みとして「他科を知る会」（整形外科領域、皮膚科領域）をシリーズ企画で開催する。また、公立豊岡病院但馬救命救急センターとの共催で「救急医療」シリーズ企画も開催する。
- 2、歯科会員のニーズに応える企画を開催する。また、審査問題など医科歯科一体の企画を定例化する。
- 3、医療・介護・保健・福祉の連携を強める機会を設ける。
- 4、審査指導対策、労務問題、パソコンなど医院の運営に役立つテーマを取り上げ、「会員懇談会」を開催する。
- 5、医院経営研究会を年一回の定例企画として開催する。
- 6、診療現場を会場に、開業医がお互いに経験を気軽に交流できる場として「日常診療勉強会」を開催する。
- 7、新型コロナウイルス感染拡大につき、感染防止に努める会員医療機関の問題意識に沿った企画を行う。
- 8、幹事による会員訪問を行い、支部ニュース「但馬の息吹」欄で紹介していく。
- 9、開業情報をすばやく入手して新規開業医の100%入会を目指す。また、病院訪問とともに開業医と勤務医が一堂に集える企画を開催し、勤務医に入会を訴える。
- 10、支部ニュースの定期発行を目指し、親しみやすい紙面づくりを工夫する。
- 11、魅力ある幹事会運営に努め、若手会員の支部行事への参加を促進させる。
- 12、家族や従業員が気軽に参加できるような場をつくり、互いの交流を促進させる。
- 13、文化的な企画を積極的に取り入れ、環境・人にやさしい支部活動をめざす。